

露地一文字整枝仕立て栽培におけるイチジク有望品種の選定

【要約】‘榊井ドーフィン’に次ぐ品種として、収量の多い‘バナーネ’、果実は小さいものの、収穫果数が多く糖度も高い‘カドタ’および糖度が高く収穫盛期の早い‘アーテナ’が有望である。

農業技術振興センター・花・果樹研究部・果樹担当

【実施期間】 平成 24 年度～平成 27 年度

【部会】 農産

【分野】 需要に応える農畜産物づくり

【予算区分】 県単

【成果分類】 指導

【背景・ねらい】

イチジクの県内における栽培面積は増加している。販売先は、市場出荷を主としつつ直売所等による販売も行われているが、‘榊井ドーフィン’のみに特化した栽培が行われており、出荷時期の集中や消費者の限定化が問題となっている。また、産地では、直売用として、‘榊井ドーフィン’以外の品種も求められている。

こうしたことから、早期収穫や高糖度といった、特徴のある‘榊井ドーフィン’以外のイチジクの有望品種を選定する。

【成果の内容・特徴】

- ① ‘榊井ドーフィン’を除いたイチジク 6 品種の中から、収穫時期、収量、品質等で有望な‘バナーネ’、‘カドタ’、‘アーテナ’の 3 品種を選定した（表 1）。
- ② ‘バナーネ’は、‘榊井ドーフィン’と比べ、樹勢が同程度で、収穫盛期はやや早く、特に 9 月中下旬の収量が多い。果実重は 80g 程度とやや小さいものの、収穫果数が多く、収量は優る。また、果皮色が黄緑色～赤褐色で、果肉は赤褐色である。糖度は同程度である（表 1、図 1～3）。
- ③ ‘カドタ’は、‘榊井ドーフィン’と比べ、樹勢が強く、収穫盛期はほぼ同じである。収穫果数は多いが、果実重は 40 g 程度と小さく、収量はやや劣る。果皮色が淡黄緑色で、果肉は橙色である。糖度は高く優る（表 1、図 1～3）。
- ④ ‘アーテナ’は‘榊井ドーフィン’と比べ、樹勢が同程度で、収穫盛期は 1 週間以上早い。果実重は 40g 程度と小さく、収量は半分程度である。果皮色が淡黄緑色、果肉は淡黄色である。糖度は最も高く優る（表 1、図 1～3）。

【成果の活用面・留意点】

- ① 本調査は、露地圃場において、株間 3.0m×列間 3.0m の一文字整枝仕立てとし、結果枝は片側 40 cm 間隔で配置し、約 2.0m の高さで先端を摘心し調査した結果である。
- ② 県内の慣行栽培と同じ列間 2.0m で植栽した場合、成園時（定植 3 年目）の 10 a 当たりの収量は、‘榊井ドーフィン’の 3.3t に対し、‘バナーネ’ 3.9t、‘カドタ’ 2.0t、‘アーテナ’ 1.4t と換算される。
- ③ 3 品種とも、果皮色や品質が一般に販売されている‘榊井ドーフィン’と異なることから、店頭販売の際には、品種の特徴等を実需者（消費者）に説明する必要がある。
- ④ ‘バナーネ’、‘アーテナ’について、果皮が薄く、皮ごと食べることが可能である。
- ⑤ 耐寒性について、一般的に‘榊井ドーフィン’が最も弱く、‘バナーネ’、‘アーテナ’が中程度、‘カドタ’は強いとされている。

[具体的データ]

表1 イチジクの品種特性

品 種	樹 勢	果皮色	果肉色	H26(定植2年目)		H27(定植3年目)			
				収穫盛期 (月/日)	収量 (kg/樹)	収穫盛期 (月/日)	収量 (kg/樹)	果実重 (g)	糖度 (Brix%)
ヌール・ド・カロン	強	紫黒	赤褐	9/24	1.4	9/28	2.8	51.2	14.3
アーテナ	中	淡黄緑	淡黄	9/16	5.5	8/31	8.2	44.5	15.5
バナーネ	中	黄緑～赤褐	赤褐	9/19	16.1	9/22	23.6	80.7	13.7
カドタ	強	淡黄緑	橙	9/22	8.7	9/28	11.8	42.1	14.8
ブリジャット・グリス	強	黄緑～赤褐	濃赤	9/24	4.8	9/25	6.4	49.4	14.9
ヒョレ・ソリエス	強	紫黒	赤褐	10/30	6.4	10/28	6.2	48.6	14.4
榊井ドーフィン	中	赤褐	赤褐	9/24	11.2	9/25	19.6	93.3	13.9

注) 樹勢、果皮色、果肉色については、達観により評価した。

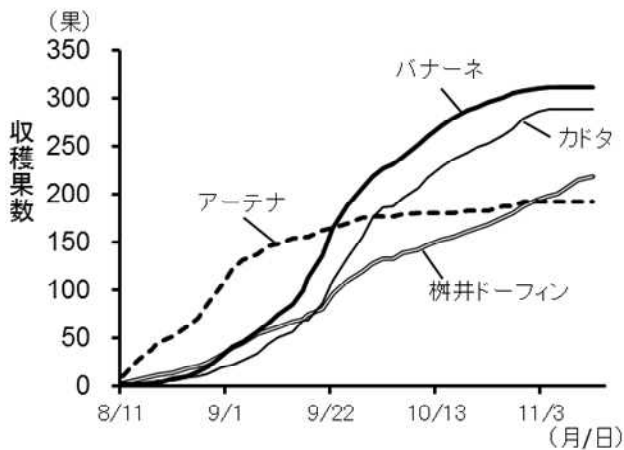


図1 樹あたりの累積収穫果数(H27)

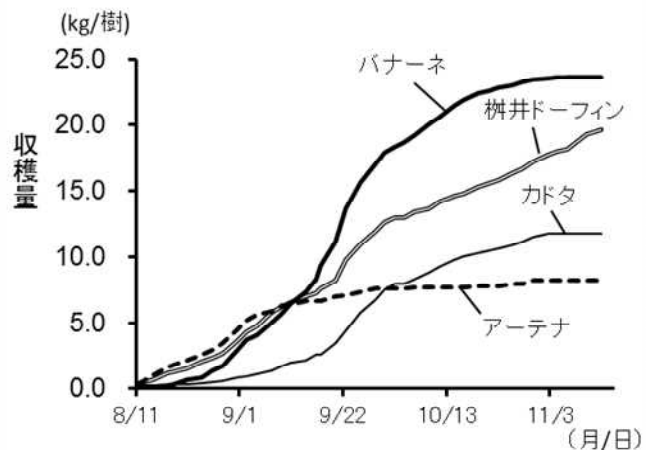


図2 樹あたりの累積収穫量(H27)

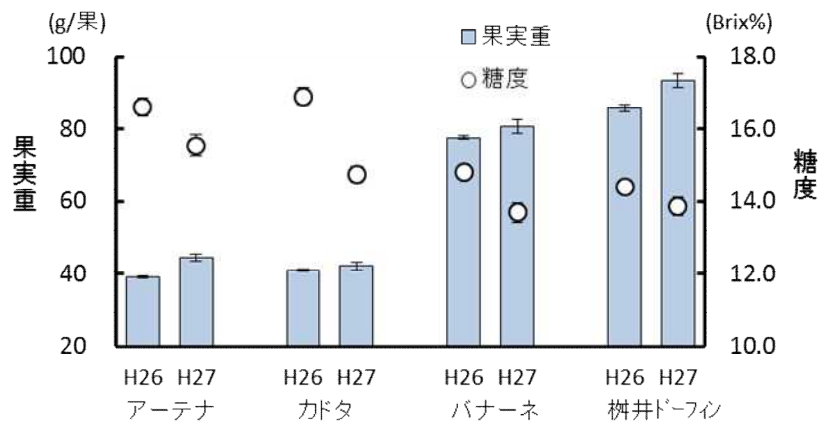


図3 各品種の果実品質

注) エラーバーは標準誤差を示す。

[その他]

・研究課題名

大課題名：需要に応える農畜産物づくりに関する研究

中課題名：水稲・麦類作況調査および麦・大豆等適応性検定事業

小課題名：果樹系統適応性検定等調査

・研究担当者名：村井公亮(H26～27)、中井洋子(H24～25)

・その他特記事項

緊急的技術課題早期実用化推進普及事業(H24～26)

技術的要請課題：甲賀農業農村振興事務所(H23 年度)